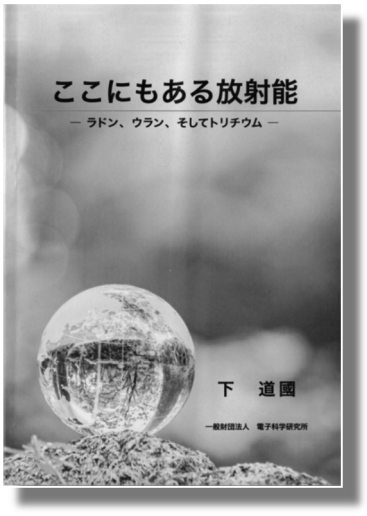
著書紹介

「ここにもある放射能」

－ ラドン、ウラン、そしてトリチウム －

著者：下　道國



放射線のことを全くご存知のない方々は、一瞬ギョッとされるタイトルかも知れません。本誌読者の皆さまは、身の回りにも自然放射線や自然放射性物質が存在することや私たちの身体も放射能を持っていることも理解しておられると思います。

サブタイトルに関連する核種名が記載されていますように、令和５年に始まった福島第一原子力発電所からの「処理水放出」とそれに伴う国内外の反応など一連の動きが本書執筆の大きな動機になっていると思われます。この難問を適切に議論するためには、少なくとも、①自然放射線の存在、及び②被ばく線量と人体影響との関係、についてある程度の基礎知識が必要です。

本書では、まず第１章「生活の中の放射能」で自然放射線を発生源によって分類し、また、私たちの生活に利用されている自然放射性物質についても紹介されています。第２章「トリチウムは厄介者か」では、トリチウムとは何か、自然界にも存在すること、世界中のすべての原子力発電所で作られそれらは完全には処理できないことなど、科学的データを引用しながら解説されています。

第３章「人を魅惑するラドン」では、自然放射性核種であり、量的にははるかにトリチウムより多く、希ガスであること、さらには温泉効果・呼気療法にも利用されていることを詳述されています。かつて「ミスター・ラドン」と呼ばれていた著者の真骨頂と言ってもよいでしょう。

上記②（人体影響）に関する内容は、第３章の一部と第４章「悩ましい健康への影響」に述べられています。自然レベル程度やそれ以下の線量での影響は、データ処理・統計上の限界から、正確には明らかにされていません。本書では「絶対安全はない」という表現も使われています。

以上の背景の下、第５章「安全・安心への方策と風評被害はあるか」と第６章「放射性廃棄物を漂流させないために」において、私たちに課せられている大きな問題に対してどのような具体的アクションをすべきかが熱く語られています。諸課題の整理と過去の不適切な対応を振り返るとともに、著書の提言が述べられています。先送りせずに、早急にかつ真剣に議論する必要性が説かれています。

本書が、読者だけでなく、お近くのご関係者を含めた多くの方々に対する放射線知識の普及につながれば幸いです。是非とも一読ください。

（電子科学研究所　小田啓二）

A5 判、108 頁、定価 1,200 円＋消費税、
（会員価格 1,000 円＋消費税）、別途送料
購入申込みは、以下のアドレス／連絡先まで
henshu@esi.or.jp　TEL：06-6262-2410